

平成 27 年度陸前高田市文化遺産調査団 報告概要

1. 目的

本学では、東日本大震災被災地支援の一環として陸前高田市で文化遺産調査を行い、今年で4年目となった。この間、仏像胎内からの墨書の発見にもとづく伊達藩と気仙郡のかかわり、陸前高田市と小笠原諸島との交流についての新たな知見、仏像装飾の類似性にもとづく気仙郡における仏像制作の広がりといった文化遺産に関する学び、また、被災地見学・仮設住宅訪問など、防災教育に関する学びを展開してきている。今年度は、新たに3Dスキャナー等の機材も活用し、文化遺産保護の新たな方策も試行した。文化遺産は地域の歴史や地域に生きた先人の声を聴く手がかりである。地域の歴史的な成り立ちを知ることが、地域をさらに良いものにして次の世代に伝えていこうとする当事者意識の育成につながるというESDの理念に基づく被災地支援とその教育への応用を目的とする。

2. 主催

奈良教育大学 ESD概算プロジェクト（ESDを核とした教員養成の高度化－教員養成・研修におけるESDモデルプログラムの開発と普及－）

3. 実施月日

平成 27 年 9 月 9 日（水）～12 日（土） 3泊4日

4. 派遣先

陸前高田市教育委員会 公式訪問

常膳寺、長徳寺、泉増寺

湊浜薬師堂 七ヶ浜町湊浜薬師

一関市博物館「葛西氏の興亡」展見学

仙台市博物館 宮城・国分寺不動明王・毘沙門天・十二神将像熟覧

5. 参加者

教員（長友恒人、加藤久雄、山岸公基、青木智史）、大学院生（後藤田洋介）、教職大学院生（川端夕貴）、

学部生（赤津将之、佐野宏一郎） 計8名

6. 成果について

（1）成果報告書

調査報告については、参加者全員が報告書を作成し、学び喜びプロジェクトの報告書に記載する。

（2）調査成果発表会

調査に基づく模擬授業などの成果発表会を行う。

（3）その他

調査結果を基に陸前高田市の児童生徒を対象とした教材を作成し配布する。